

自然豊かで景色もよく、非常に気持ちのいいものでした。

午後の部は、廃校施設を地域おこし協力隊の活動拠点として活用している旧龍門小学校を見学しました。隊員は移住定住コンシェルジュとして「空き家調査及び紹介」「SNSを活用した菊池市の魅力発信」「地域交流事業の開催」等の業務を行っています。空き家調査の方法として固定資産税の納税通知書に活用を促すチラシを同封するなどの工夫により、現在までに27件紹介に繋がっているとのことでした。また、交流事業として「アートフェスティバル」や「木

工教室&スポチャン教室」などを開催しており、地域住民の交流の場となっているほか、地域外からも多くの参加を得ており、地域活性化に繋がっているとのことでした。

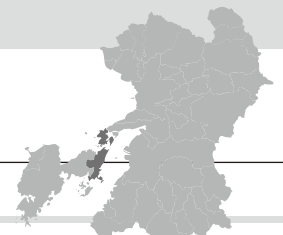
見学後、交流館へ戻り研修のまとめを行い分科会は終了となりました。

2日間を通して、廃校＝衰退ではなく、施設の活用方法一つで地域の活性化へ繋がれることを肌で感じることができ、大変良い経験となりました。この経験を今後に活かしていくとともに、本分科会で出会った方々との繋がりを大切にしていきたいと思います。

■ 第11分科会 天草ブロック

海との共生

～ 天草五橋開通50周年の天草へ～



群馬県地域づくり協議会事務局 星野 千春

天草ブロックでは計38名の方が参加。希望が一番多かったということで、北は北海道、南は沖縄から参加者がいました。

熊本駅で合流し、観光列車『A列車』に乗り三角へと出発。車内は西洋風に造られていて、ジャズを流して雰囲気演出。共有スペースにはバーがあり、ゆったりと過ごすことができま



す。また日付入のA列車パネルと一緒に写真を撮ってくれるフォトサービスも行っている等様々な工夫がされていました。

列車後は海上タクシーにて移動、5班に分かれて乗り込み、磯の匂いと潮風を受けながら、海からの島々の景色や建設途中の橋を下から見上げることが出来ました。私が乗った貴順陽号は、後部座席から届く位置にモーターがあり、浮きを上げ忘れていたためかなり飛沫が上がり後部に座っていた人達がびしょ濡れになっていました。こんなハプニングも分科会ならではの貴重な体験をさせていただきました。

市役所にて維和地区まちづくり委員会の事例発表と意見交換。今年是天草五橋開通50周年で、橋から橋を指きりで繋げてギネスに認定さ

れるなど、天草ならではのイベントを行ってました。また、九州オルレ認定の島として『癒しの維和島巡りウォーク』を開催。オルレとは韓国版トレッキングのことで、九州で初めてオルレとして認定されたとのことでした。

夕食はリゾラテラス天草にて、食事前に海に見えるテラスで天草ハイヤ踊りを披露してくださいました。

2日目は維和島ウォークラリー、1日目で海から見た島を今度は陸から巡りました。

まず千崎古墳群、石棺が島の見晴らしが良い場所に点々とありました。以前は古墳があることを知らず畑を耕すために掘り返したり、盗掘されたりしたそうです。残っていた物は、市の博物館に保管されているとのこと。

オルレに認定されたコースには、旧市役所・学校の跡地がグラウンドゴルフ場に整備されていて、地元の方の触れ合いの場となっていました。島の頂上では4方向海を見渡すことができ、不満と愛を叫ぶ場所として石台が設置されていたので、せっかくなので叫んできました。

民家の路地に入ると地元の方が無料でみかんを配ってくださり、みんなおいしそうに頬張っていました。コース途中にはみかん畑があり、みかん狩りも体験させていただきました。安全・安心を考慮して農薬を使っておらず、見た目が



黒い小さな斑点が無数にあることから、ゴマみかんと呼んでいるそうです。日持ちしないですが、とても甘かったです。

昼食のお弁当は、ハモ・刺身・魚フライ・海老フライ・タコの煮物等、地元食材をふんだんに使っていてとてもおいしかったです。

車海老養殖発祥の地として、車海老の養殖場も見学させていただきました。車海老は短期間で成長することから、稚魚が他の稚魚よりとても高く、大体半年程で出荷。おかくずの入った箱に入れますが、車海老は海水のないおかくずでも2～3週間は生きていくとのこと。また、踊り食いか塩焼きのどちらかを選んで食べることができ、自分は塩焼きをいただきました。

日本最大の天草四郎像のある藍のあまくさ村で撮影・休憩。最後に、別の分科会地域とのことで降りて見学はできませんでしたが、世界文化遺産の三角西港をバスで拝見させていただきました。

二日間、維和島の魅力を海と陸両面から見させていただくことができました。島外の方が来ても、島の皆さんと触れ合えるまちづくりがとても素晴らしいと思いました。第11分科会に参加してとても良かったと思っています。